

第4回 TRIZ シンポジウム (TRIZ シンポジウム 2008) 開催の案内にあたって

2008年6月11日

NPO 法人 日本 TRIZ 協会 理事長 林 利弘

発明的問題解決理論 TRIZ は産業界の技術革新を強力にサポートする思想、技法、そして知識エンジニアリングツールとして、1996年に日本に紹介されて以来、TRIZに関心を持つ国内ユーザにより多くの適用経験が蓄積され、現在ではビジネス革新にも有効なものとして色々な場面での適用が行われてきました。これまで3回の TRIZ シンポジウムが日本 TRIZ 協会の主催の元に毎年開催され、昨年は海外からの参加者も含めて200名の大台を超え、大いに活況を呈しました。

こうした中、日本 TRIZ 協会もその活動をより活発化させ、より公的な形にすべく、昨年の12月末にはNPO法人日本 TRIZ 協会へと衣替えを行ないましたが、今回の第4回 TRIZ シンポジウム (TRIZ2008) はこのNPO法人日本 TRIZ 協会の最初のシンポジウムとなり、「TRIZの新しい展開を目指して」というテーマのもと、関西地区の琵琶湖畔 (ラフォーレ琵琶湖) に場所を移して9月10日 (水) ~12日 (金) の3日間開催致します。

本シンポジウムの発表申し込みは去る5月15日に締め切りましたが、これまでのシンポジウムの実績及び国内における TRIZ の着実な浸透に加えて、NPO法人として会員組織にしたことも相俟って、発表申し込みは48件と前回の29件を大きく上回り、招待講演3件を含めると計51件の発表となります。

特に今回は基調講演を Intel 社 Amir Roggel 氏と TRIZ マスター Sergei Ikovenko 氏の両氏にお越し、Intel 社での全社的な TRIZ への取り組みの経験 (基調講演1及び多数の関連の具体事例発表) 及び TRIZ の今後の向かう方向について (基調講演2) の講演が行われます。また日本からは、松下電器 R&D 部門においてシステム・方式・ソフトウェア技術への TRIZ 適用を如何に進めたかについて、福嶋洋次郎氏に特別講演をお願いしています。

一方、一般講演としては、従来の大企業での適用から中小企業での適用、産業界中心の適用から学校教育における自由研究への TRIZ 適用と、その適用範囲もその裾野を広げており、海外からの参加国も7カ国となり、正にNPO法人日本 TRIZ 協会の第1回シンポジウムに相応しい広がりをもったシンポジウムの発表構成となっています。

また、今回は TRIZ 入門者を対象としたチュートリアル及び TRIZ 経験者を対象に、参加者がお互いにそれぞれの TRIZ への関わりや TRIZ の使い方を確認しあう Preliminary session を初日の午前中に設定し、スムーズにシンポジウムに入っていけるようにしました。

今回のシンポジウムは昨年を大幅に上回る発表申し込みがあったため、一般講演のオーラル発表はすべてパラレルセッションとし、ポスター発表は3回に分けてのセッションという構成としました。

このように今回の第4回シンポジウムは従来にも増して興味深いテーマが数多く発表されますので、TRIZ の実践者、TRIZ の適用普及を進めておられる方々、これから TRIZ を始めてみようとする方々、TRIZ に関心のある方々、また、NPO法人日本 TRIZ 協会の会員そしてこれから会員になってみようと思っ
ている方々の積極的な参加を期待するとともに、今回のシンポジウムが参加頂いた皆様の業務やビジネスの様々な場面でのイノベーションにお役に立てることを祈念しています。

それでは皆様と琵琶湖畔でお会いできることを楽しみにしております。